

事業所名 グループホーム ほほえみ

日付 平成 21 年 3 月 11 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

グループホームほほえみは、田畑の広がる中に家屋が点在する山間の美しい田園地帯にあり、特別養護老人ホームやケアハウスに隣接している。室内は華やかな装飾はないが、照明を眩しくないよう全て和紙のカバーで覆い、輝度を抑えているので、柔らかくて落ち着いた明るさの居心地の良い空間になっている。居室のドアには曇りガラスの小窓があり、よく見ると一部分が透明になっていて、そこから室内の様子を窺うことができるようになっている。

管理者は地域における介護の拠点となるグループホームを目指しており、職員のモチベーションを高めようと啓発に努めている。ユニット間がそれぞれ孤立することのないように、流動的に担当職員を替えている。また、ドアには鍵などかけていないので、利用者もユニット間を自由に行き来できる。どの職員も利用者を理解する努力をしながら介護を行っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

自分の居室を確認できない入居者の方が増えていて、食事の後など椅子にぼんやり座って、一日の大半を共有空間で過ごしている方が多い。身体活動の少なくなりがちなホームでの生活において、居室と共有空間の移動がさらに少なくなり、機能低下を助長することが懸念される。何もしない状態にいる入居者に対し、もっと入居者の能力を引き出し、手や体を動かしたりできるような施策が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	入居者が安心して、夢を抱いて、朗らかな人生をおくれるような優しさや温かみのあるグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	居室に帰りたくない入居者については、自分の部屋でなくても職員の近くに寝具を持ってきて共有空間で寝てもらうこともある。また、帰宅願望を忘れてもらうために職員が入居者の気分を転換するような話をしたりして、入居者一人ひとりを大切にしている。 入居者のデータを収集・分析し、良好な結果の出なかった職員には個別に指導することもある。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	部屋に入る時は必ず本人の了承を得て入るようにしている。また、一人ひとり性格も健康状態も違うので、個別の対応を大切にしよう職員同士で話し合っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	職員が自分の目の前に見えている入居者の状況だけでなく、入居者の個別のニーズについて観察を深め、情報を皆で共有するように管理者共々努力している。		